

五歳児三学期の自由あそび



富 樫 純 子

五歳児の三学期の自由あそびについて、書くようにとのことであるが、一口にいえば、幼児たちはグループの一員として、役割をもって自主的にあそべるようになってきている。これは入園以来、自分からあそびをみつけ、好きなあそびをしているうちに、友だちあそびの楽しさもわかり、教師のなかだちや、遊具の刺激などにより、友だちとのむずびつきができて、グループであそぶようになってくる。

自由にいろいろなあそびや活動を経験して、グループ間の交流も盛んになり、交友関係も広く深くなって、あそびも幅広く展開するようになり、卒園の頃には、自然のうちに、次のようなことが身についている。

①グループの中では役割をもって活動をする。

②自分の思っていることを、仲間に素直にいう。

③幼児なりのよい悪いの判断ができて、考えて行動することができようになる。

④あそんでいるうちに、困ったことや問題がおきたときは、子どもたちで話し合っ解決できる。

⑤数人のグループで、目的について話し合ったり、相談したりして、あそびを進めることができる。

⑥共同の遊具や用具を大切に、仲よくゆずり合っあそぶ習慣も身についている。

⑦あそびに必要なきまりや、ルールをまもることができる。

次に、具体的に五歳児の三学期にみられる自由あそびの実際の一端をいくつか述べてみたいと思う。

○バレエごっこ

自由に曲を選んでレコードをかけて、きいたり、うたったり、楽隊ごっこをしたりするのも多く見られる。あるとき、女兒のグループでバレエごっこをしておどろうということになり、曲に合わせて自由におどったり、二、三人でくんだり、四、五人でわになつたりして自由に表現している。そのうちに頭に花をつけた方がよいということに相談がまとまり、花や白鳥のかんむりやその他必要なものの製作が始まる。手にも花などをつけたり、場合によっては、バレエ用のスカートをおそろいで作ってはいて、また自由に曲をかけている。

子どもたちに、よく使われ喜ばれる曲は、スケーターズ・ワルツ、おもちゃの兵隊、白鳥の湖（四羽の白鳥の踊り）、アマリリス、小さいお花のバレエ、こいぬのワルツなどで、まだいろいろレコードをきいては使っている。おどる仲間もだんだんにふえたり、男児も、製作したカメラを持って来て写真班になって活躍したり、会場整理係、アナウンス係、テレビカメラマンになって中継したりして、あそびが発展する。あるときは、男児は楽士役をするやうら、お客になつたり、レコード係になつたりして、次々に役がかわり、曲によって、おもちゃの兵隊などは、おどり手に早替りしたりして、あそんでいる。屋外のばらの家などで、知っている曲やうたを口ずさみながらの、バレエ大会が開催されることなども

見受けられる。

○人形芝居ごっこ

遊具の指人形や動物が使い始められた。人形芝居ごっこも、たりにないお人形や小道具などは、自分たちで相談して協力して製作して人形芝居がはじまる。プログラムも入場券もきつぷうりばも、じゅんじゅんにでき上がり、いよいよ開演となる。開演の合図と共に幕があく。プログラムは、あかずきんや白雪姫、三匹のこぶたなど子どもたちのよく知っている話のときもあるし、あるときは自分たちのあそびの再現の話や、想像したり空想したりした合作の話であつたりする。お姫さまはお姫さまらしい声を出したりなどして楽しくお芝居は進められる。幕間になると、おべんとうや果物、ジュース、アイスクリーム売りが出たり、おみやげ売りなどになる子どもも出たりする。観客がこんどは相談によりお芝居をする方になつたりして、役割も交替し合つてあそんでいる。

人形芝居だけでなく、自分たちで作ったペープサートから始まることもあるし、紙芝居をかいて、それを演出するような形をとることもある。

○砂場（写真①）

少し暖かい日を子どもたちはよく知っていて、砂場でのあそび



① 砂場でみんなで協力してあそぶ

替線路を考えたりして、それぞれのグループで話し合ったり、相談したりして協力してあそんでいる。

細かいところにもみんなの創意工夫や苦心のあとがみられることが多い。ケーキやごちそうなどがたくさんつくられることもある。また山を堅く堅くかためて、各自が堅いおだんごを何日かか

が盛んである。共同でダムをつくることもあ
るし、大きい山
をつくると
きもある。
また深い池
を掘った
り、トンネ
ルや鉄橋を
つくり、駅
から駅に汽
車や電車を
走らせ、切

かってつくり、山にも道をつくり、おだんごをころがして、ここに入ったら何点というようなあそびをすることもあ。このおだんごつくりも、どうしたらすぐこわれない堅いのできるか、それぞれが一生けんめい考えているようすである。

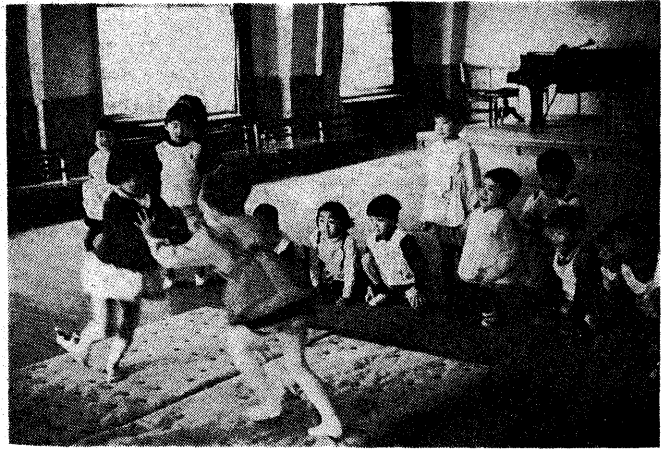
○集団あそび

今までに経験した集団あそびに、おおぜいが参加してあそぶ光景もみられる。しのび足、 Rond 橋おちた、たけのこ一本おくれ、はないちもんめ、ことしのぼたん、おにごっこ(まるおに、たかおに、きおに、手つなぎおに……)など、それぞれのあそびに必要なルールやきまりをまもってあそんでいる。あるときは簡単なきまりを新しく考えることもあつて、小人数で始められたあそびも、参加人数が、だんだんにふえ発展していくことが多い。小さい組のお友だちも仲間に入って、あそびが一層楽しくなることもある。(写真②)

リレーも男女おおぜいであそぶ。赤白の二組だったり、四組に分かれたりして、バトンをもって、庭の花だんをいまわりしたり、藤棚をいまわりしたり、たまには山をいまわりすることもあつて元気に走っている。年長組の二組が合流してあそび、意気あがることもしばしばである。(写真③)



② 小さい組もいっしょにあそぶ



③ すもうのきまりをまもってあそぶ

すべり台などの遊具は、すぐに必要な基地や家や、飛行機その他のものに変じ、積木、ブロック、わ、タイヤなどで自由にそのあそびに必要なものを構成している。怪獣にウルトラマンに宇宙人にパーマンにと、そのものになりきって探検隊や救助隊や観測隊にと活躍している。

役割もよく分かれていて相談してはそのあそびに必要なものをつくり、一団となつてあそんでいる、この一つのアそびが何日かつづくことも多い。

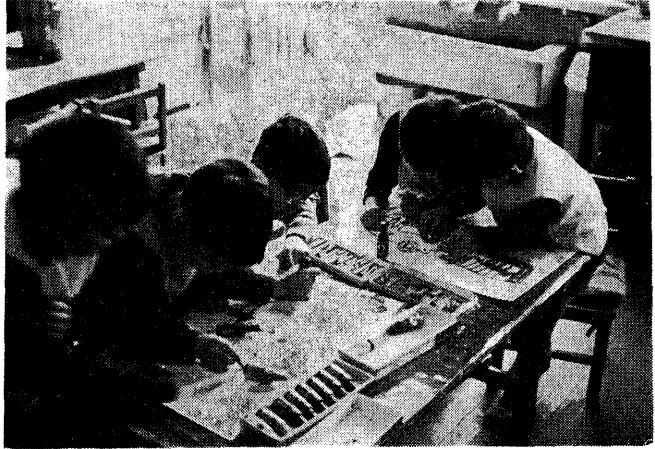
○テレビの再現あそび

怪獣、サンダーバード、パーマン、ウルトラセブンなど、子どもたちはテレビで見たものを再現して、みんなであそぶことが大好きである。

子どもたちの想像力、空想力はたくましく、ジャングルジムや

○積木、くみ板などを使ってのあそび

床上積木、くみ板などを巧みに使つて、船や汽車や飛行機やrocket、家などをつくつてあそぶ。必要な機械や運転に使うものなどは適切なものをよく考えてつくつている。みんながそれぞれのアイデアを生かして考えたり、道具を利用したりして相談して



④ あそびに必要なものをかいてつくる



⑤ のりものごっこであそぶ

このほか野球、のりものごっこ（写真⑥）、ままごと、学校ごっこ、なわとびなど子どもたちが喜んでしているあそびをあげれば、まだまだたくさんあるが、本稿はその一部を述べたのである。

子どもたちは、元気にいきいきとして、全身で夢中であそび、あそびの中で成長している。このさまざまなあそびを通して、教師は年齢に応じ、個人差に適した指導をするように心掛け、子どもたちがのびのびと豊かなあそびを経験して伸びていくことが望ましいと思う。

（お茶の水女子大学附属幼稚園）

作ってみんながそれを認めているようすである。（写真④）

例をあげれば、観測用のレーダー、宇宙人用の帽子など感じがよく出ているものを、くふうしている。単純だったあそびもだんだん複雑なものになっていくようすで、このあそびからテレビの再現あそびに発展していくこともある。

訂正とおわび

67巻2号40頁のタイトル「日本保育会と秋田美子氏」は「日本保育界と秋田美子氏」の誤りです。